近世日本天文学（暦学）人物伝（4）

間　重　富

はざましげとみ（1756～1816）は寛政～文化年間に活躍した天文，暦学者である．

大阪の富裕な質屋に生まれた重富は幼時から機工類の細工に才能を示したという．29 歳のころ志をたて，天文，測量，暦書等を研究し，32 歳のとき**麻田剛立**（月報第 82 巻 2 月号参照）の門に入った．相前後して入門した**高橋至時**（同 3 月号参照）を含む師弟 3 人は「暦象考成後編」を共同で研究することによって以後のわが国の天文学の指導的立場を確保した．

当時，非常に貴重な書であったこの「暦象考成後編」の入手は重富の功績にあげられている．この書を含む中国の律暦書「律暦淵源」は船載記録によれば，宝暦 11，12 年（1761，1762）に各 1 組がもたらされている．幕府と桑名藩主のもとに所蔵されていたものがそれに当たるらしい．時の桑名藩主松平忠和は数学者として知られ天文学にも詳しく重富と親交があった．重富の懇請と莫大な代価が献上されたのだろうか，詳細は不明である，いずれにせよ重富によって入手が実現したのである．

麻田一門の天文学は当時名高いものだったらしい．寛政 7 年（1795），至時と重富は暦学ご用につき江戸出府を命ぜられた．このいきさつも時の幕閣に対して，桑名候の推挙があったものと考えられる．出府後至時だけが新たに天文方に取り立てられた．至時は御家人，重富は町人，剛立は杵築藩を脱藩した浪人となれば身分制度の厳しい当時としては当然のことと考えられる．

重富もその実力は周囲によく知られていたから，身分は頒暦所御用掛であったが，吉田靱負，山路才助，高橋至時の 3 天文方が京都で改暦準備の観測に従事しているとき（1796），重富は実質上留守の責任者だったのだろうか，江戸における観測に従事し，新しい観測機械の開発に当たり，さらに教育までしていたようである．

重富の業績の一つは人作りと言えよう．富裕な商人であったことも幸いしている，時には経済的援助を，また当時の学問の要請に応えるような養成もしている．もちろん最新最高の天文学の教育も行っている．

伊能忠敬は 50 歳になって家督を嗣子にゆずって，江戸に住居を構え，翌寛政 7 年（1795）至時の門に入った．至時の 1 年余りの留守の間，重富が「暦象考成後編」を講義した．また忠敬の測量に必要な機器の製作についても助言，協力している．

高橋景保は至時の長男である．父の死によって天文方を継いだ（1804）が弱冠 20 歳，重富は補佐のため出府するよう命ぜられ，以来 6 年余り最先端の天文を講義し，すべてを伝え帰阪した．景保は天文方勤務の一方蛮書和解御用の創設（1811）に尽力，書物奉行となり（1814）満州語を研究し多くの著書を完成，天文方筆頭として伊能忠敬の測量を指揮するなど，シーボルト事件で獄死する（1829）までめざましい活躍の日々を送った．

渋川景佑は至時の次男である．渋川家の養子となり天文方となった（1809）．景佑も景保と同様に重富の教育を受けていると推察されるが記録はない．

麻田立達は剛立の養子である．医家が本業であったが天文分野においてもよい観測記録を残している．病気がちで生活に窮していたが，重富は経済的援助を与えるだけでなくレンズ磨きを勧めた．当時望遠鏡の製作費が非常に高かったという事情もあった．後年舶来品より優れていると言われるほどの望遠鏡を作った．

足立信頭は大阪の鉄砲奉行の同心であったが剛立の門人となった．重富の運動により暦学御用のため出府を命ぜられ景保付手伝となった（1796）．後年景佑と共に「新巧暦書」などの暦書を作り，天保改暦の事業に加わった．ロシア語を研究し通詞として活躍し，日本初のロシア語辞書を作った．重富は不遇な時代の信頭を励まし天文方に採用されるよう運動した．信頭は天保 6 年（1835）新規に召し抱えられた最後の天文方となった．

間重富の業績について忘れられないことに，多くの天文観測と観測機器の製作，改良がある．理論の裏付けとなる正確な観測は麻田流天文学の特徴で，また重富自身の得意な分野でもあり垂揺球儀（振子時計），子午線儀，象限儀等の創作あるいは改良などをおこなって多くの観測記録を残している．これは嗣子**間重新**（1786～1838）についても同様で間家に日月食，掩蔽，惑星，彗星などの多くの観測記録が残されている．

重富は町人でありながら，わが国の天文暦学の発展のために中心で活躍した人物の一人で，その存在はまことに大きい．

間重富が保有していたと考えられる「暦象考成上下後編」（蔵書印あり）を東京大学東洋文化研究所で見つけた．200 年の昔の暦学研究者のことを思い感慨を新たにした．

（神田　泰）

平成元年 3 月 20 日	発　行　人	〒181 東京都三鷹市国立天文台内	社団法人　日本天文学会
印刷発行	印　刷　所	〒162 東京都新宿区早稲田鶴巻町 565-12	啓文堂松本印刷
定価 450 円	発　行　所	〒181 東京都三鷹市国立天文台内	社団法人　日本天文学会
		電話（0422）31—1359	振替口座 東京 6-13595